

2020年度 公益社団法人乙訓青年会議所
理事長所信

公益社団法人乙訓青年会議所
理事長 達城 英治

はじめに

1979年、「今こそ我々は、郷土愛を再認識し、自らの研鑽を通じて友情を深め、明るい豊かな社会の建設に貢献しなければならない」という高い志のもと、全国で659番目の青年会議所として乙訓青年会議所は誕生致しました。そして、これまでの長い歴史のなか、英知と勇氣と情熱をもった先輩諸兄姉が乙訓(まち)の発展に寄与してこられ、その軌跡は私たちの乙訓青年会議所への「誇り」に繋がっています。乙訓地域は人口も緩やかに増加し、高い利便性と豊かな自然や優れた歴史文化遺産により、調和のとれた乙訓(まち)として発展しております。しかし、人口減少、少子高齢化、情報の複雑化による環境の変化と今後さまざまな社会変革が予想されており、私たちの乙訓(まち)においても先行きが不透明であることは事実です。私たちは、そんな先行きが不透明な時代であったとしても、乙訓(まち)を明るく導くことのできる存在であり続けなければなりません。

今こそ、先輩諸兄姉が築きあげてこられた、市民、行政、地域諸団体との繋がりや信頼という土台で活動できることへの感謝を胸に、2019年度に策定した5ヵ年活動計画、未来Vision「まちと人が愛を実感する乙訓の実現」に向かい、目指すべき方向性を共有した誇れる仲間とともに、何事にも全力で取り組む必要があります。激しい時代の流れのなかでも一際輝く、誇れる乙訓(まち)であり続けるために。

全員全力！～信じる心で誇りと未来を創造しよう～

誰にも未来のことはわかりません。現在の行動や経験が自分の未来にどう繋がるのか理解できない時もあります。しかし、私はこれまでのJC経験において、どんな機会に対しても全力で取り組んできました。その結果、自分の強みと弱みがわかりました。また、家族や従業員の尊さにも気付くことができました。そして、事業や課題に対し共通の目的をもち、ともに立ち向かったことで信頼し合える仲間ができました。私は、そんな宝物ともいえるような経験を乙訓青年会議所メンバーにも得て頂き、激しい時代の流れのなかでも一際輝く、誇れる乙訓(まち)であり続けるという共通の目的に向かい全員全力で立ち向かって参ります。

2020年度はスローガンに「全員全力！」を掲げ、「～信じる心で誇りと未来を創造しよう～」をテーマに活動します。誇れる乙訓(まち)であり続けるために、乙訓青年会議所メンバー全員が全力で行動して欲しい想いを「全員全力！」と表しました。一人ひとりが自身や仲間、

組織の可能性を素直に信じ全力で行動することで、目の前の機会がより意味のあるものとなります。そして、知らなかった知識、対人能力、管理能力、経営能力などの多くの学びを得ることができ、それぞれの成長に繋がります。また、全力で行動する姿は仲間や周囲の共感を集めます。そんな人財が集まり40周年に新たに策定した未来Vision「まちと人が愛を実感する乙訓の実現」に向け運動を展開すれば、乙訓(まち)に住まう方々の意識変革や地域の課題解決に向けた前進という良い影響を与えます。そして、乙訓(まち)に与えた影響、自身の成長、互いに信頼できる仲間という成果こそが乙訓青年会議所への「誇り」に繋がり、その「誇り」は、私たちの運動の原動力となります。まず私が先頭に立ち、組織のリーダーとして自身や仲間、組織の可能性を信じ、仲間とともに全員全力で行動できる環境の構築に尽力します。私たちが「誇り」に思う、乙訓(まち)をより良くする乙訓青年会議所の組織風土を繋ぐなかで、宝物となる経験を糧にして、私たちのより良い未来を創造しよう。

全力でやろうと思える人間関係で「誇り」ある組織を創造しよう

今、乙訓青年会議所の活動に「元気がない」との声があるのはなぜでしょうか。メンバー同士の関わり合いのなかに、互いへの敬意や行動に対する感謝が薄れつつあるからだと考えています。しかし、様々な職種や年代の青年経済人が集まる私たちは、それぞれの能力を活かし補い合うことで、大きな力を生むことができます。互いを尊重する心や相手に感謝を伝える習慣と、誇れる乙訓(まち)を創るという共通の目的をもつことこそが人間関係を築く基礎となり、私たちの乙訓(まち)の未来を創る運動をより大きく昇華させることに繋がります。今こそ、運動の方向性の共有と互いにプラスを与え合える関係性を軸に、仲間とともに何事にも楽しく全力で取り組める環境を構築する必要があります。

まずは、より良い乙訓(まち)の創造には私たち全員が全力で行動することが必要であり、その行動を自身のさらなる成長や周囲への共感、そして、より良い乙訓(まち)の創造に繋げる意識を統一する機会を創出します。また、地域や世代を越えた交流の場やLOMを越えた事業において、新たな経験や学びを楽しく享受する時間のなかで、互いを知り本音を話せる関係を構築します。そして、活動を通じた相互交流のなかで、相手の心に寄り添う思いやりの心と素直に相手を信じる心で、互いにプラスを与え合える関係を構築します。さらに、全力で活動に取り組むには、家族や従業員の皆様の支えがなくてはなりません。家族や従業員の皆様と交流できる場を創出し、活動への理解を深めて頂きます。また、さらに強固な組織となるために、卒業を迎える仲間の活動への敬意と感謝の心をもつ機会を創出し、組織の結束力を高めます。そして、全力で取り組める環境を次代に繋ぐために、一年間の労をねぎらうとともに、私たちの運動にご協力頂いた方々へ感謝を伝える機会を創出し、さらなる協力関係を構築します。青年会議所は人の気持ちで成り立ちます。それぞれの貴重な時間を使う活動に「やって当たり前」はありません。先輩諸兄姉が築いた組織の土台と、ともに活動する仲

間、家族や従業員の皆様への感謝の心もち、「全力でやろう」と思える人間関係を築くことで、「誇り」ある組織を創りましょう。

組織への「誇り」に繋がる運動を発信しよう

今、地域の方々がもつ、私たちへのイメージはどのようなものでしょうか。乙訓青年会議所は長年にわたり、広報誌やSNSを用いて運動や活動内容の情報を発信してまいりましたが、未だに認知度は充分ではありません。地域に必要とされる乙訓青年会議所として認知され、その存在価値をさらに高めるべく、組織の目指すべき方向性への理解と、私たちの運動や活動内容を受け手の目線に立ち心を動かす情報発信で、地域からの共感や信頼を集める必要があります。

地域からの共感や信頼を得る発信に繋げるため、創立を祝う場において、創立当初から現在に至る活動の軌跡や関わった人々の想い、各種事業の成り立ちや組織の方向性を改めて学ぶ機会を創出し、メンバーに組織の運動の本質を理解して頂きます。また、受け手の目線に立ち心を動かす情報発信をすべく、広報誌やホームページの活用と、迅速かつ積極的な発信のなかで、工夫を凝らした発信方法や発信ツール、マスメディアとの連携を図り、地域からの共感や信頼を集めます。そして、メンバーが地域の枠を越えて活動する機会を得た学びを乙訓青年会議所の運動に活かすことで、より良い乙訓(まち)の創造に繋がります。メンバーに青年会議所の強みである出向への意欲を高める機会を創出し、私たちの運動のさらなる推進力に繋がります。さらに、運動発信を担う重要な立場として、どのような趣旨、姿勢で取り組んでいるかを内外に発信し、メンバーの様々な事業への参画に繋がるとともに、地域の方々からの共感を集めます。周囲からの共感や信頼の声は、組織への「誇り」に繋がります。そして、その「誇り」は私たちが活動に全力で取り組む原動力となり、その結果、私たちの運動はより大きなものとなります。組織の運動への深い理解による「全員が広告塔」という理想を目指し、組織の認知度と存在価値を高めてまいりましょう。

人の心に影響を与える人財になろう

全国的な人口減少、少子高齢化、情報の複雑化などの環境の変化により、令和の時代は社会や地域を取り巻く環境や課題も徐々に変化していく「過渡期」を迎えます。乙訓地域においても多様化、複雑化する課題の解決には、多くの人々のアイデアや行動が必要です。地域に根差す私たちの活動への共感から、多くの人を協働に導く「人の心に影響を与える人財」を育成する必要があります。

「人の心に影響を与える人財」になるには、物事に向き合う心構えが重要です。物事がうまくいかない結果を「失敗」と捉え、責任を他に転じていては誰からの信頼も得ることができません。また、そのような人物の行動は誰の心にも影響を与えることはできません。自分に関わる

ことは全て自ら決断し、その結果に責任をもたなければなりません。まずは、他からの信頼を得る人財となるために、何事も主体的に捉える心を養う機会を創出し、人の心に影響を与える土台を築きます。そして、その土台のうえで、人の心に共感やワクワクといった感情を生み出すために、本質を見極める力と遊び心ある創造的思考能力を向上する機会を創出し、行動の動機を刺激するために必要な資質を向上します。さらに、心に与えた影響を多くの人の行動に繋げるため、相手を意識した最適なコミュニケーションを地域の方々とともに学ぶ機会を創出し、共感から協働に繋げる資質を向上します。多くの仲間の行動で組織の運動の質を向上させるためにも、まず、私たちが「人の心に影響を与える人財」になろう。私たちの乙訓(まち)が、より良い影響を与える人で溢れる明るい未来となるように。

心に響くアプローチで仲間の輪を拡げよう

青年会議所の会員数は全国的にみると近年では、卒業者数と年間退会者数の合計値を入会者数が上回った年はありません。乙訓青年会議所も2019年度は14名の卒業生を送り出し、期首会員数が例年を下回る状況です。会員数の低下は事業規模の縮小による地域への影響力低下や会員の学びの機会の減少が危惧され、魅力ある組織としてあり続けることの弊害となりかねません。今後も地域に根差した運動で、魅力ある組織としてあり続けるためにも、多くの人との出会いを通じて、それぞれの人の心に響くアプローチで、ともに運動を展開する仲間を一人でも多く集める必要があります。

まずは、多くの人との出会いは行動でしか得ることができないことを認識し、会員拡大とは地域貢献に繋がる究極の青年会議所活動であることをメンバー全員で共有する機会を創出します。そして、過去の拡大手法や成功事例を改善、改良するとともに、何が相手の心を動かすのかを常に模索して、メンバー全員で会員の拡大に繋がります。また、新たなメンバーの入会前後の丁寧なサポートを行うほか、同期の仲間として今後の活動の糧となる体験ができる機会を創出します。組織の活動は人によって創られます。多くの同じ想いをもち目の前の機会に全力で取り組む人が集まる組織の運動は地域に大きな影響を与えます。私たちの運動をさらに昇華させるきっかけとなり、誰にとっても有意義な魅力ある組織であり続けるべく、全力で仲間の輪を拡げてまいりましょう。

未来を拓く青少年が育つ環境を構築しよう

今の子供たちは、柔軟で豊かな感性や国際性を備えるなどの良い傾向がある一方、他者への思いやりや人権尊重の心の低下、自制心や規範意識の低下、人間関係を形成する力の低下などの傾向が指摘されています。また、諸外国と比べて自尊感情が低く、未来に夢を描けないという指摘もあります。乙訓(まち)の明るい未来を創造する私たちは、未来を担う子

供たちが社会変革の予想される時代のなかでも、夢を描き、それに挑戦できる心を備えた未来を拓く人財として育つ環境を構築する必要があります。

私たち大人の日頃の姿勢こそが子供たちの健全な育成に重要です。まずは、子供たちの未来を真剣に考える「カッコいい大人の背中」を見せるため、地域の方々とともにモラル向上に取り組む機会を創出します。そして、文化少年団事業や継続事業では、子供同士での様々な体験を通じて、自尊感情や互いを大切にすることを学ぶ機会を創出し、子供への徳育を推進します。さらに、青少年を育成する地域諸団体との連携を推進し、地域の子供たちが育つ環境の構築に尽力します。また、甚大化する災害から乙訓(まち)の未来を担う子供たちを守るために、災害時の対応も含めた防災に対する教育の機会を創出します。次なる時代は、新しい価値を希求する若者の文化が社会発展の原動力となると考えます。乙訓(まち)の未来を担う子供たちが、自分を信じることでのびのびと能力を発揮でき、乙訓(まち)や自分の未来を拓けるよう、全力で青少年育成に努めてまいりましょう。

乙訓愛でまちの未来を創造しよう

乙訓地域は京都市と隣接し交通の利便性も高く、また、竹をはじめとする豊かな自然や優れた歴史文化遺産という恵まれた地域資源を有していますが、その恵まれた地域資源である社会基盤や特産品が地域の発展に活かされていない現状があります。「自分たちの乙訓(まち)を自分たちで創る」という意識は、乙訓愛により一層強くなります。乙訓青年会議所メンバーの約6割が乙訓地域外出身という現状も踏まえ、私たちはさらなる地域の発展を目指し、地域の魅力や特性の深い理解から乙訓愛を育み、乙訓(まち)の未来を自分事と捉えたくて40周年に新たに策定した未来Vision「まちと人が愛を実感する乙訓の実現」に歩みを進める必要があります。

まずは、乙訓青年会議所メンバーが地域のリーダーとして、乙訓愛を育み、乙訓(まち)への深い理解に繋げるため、メンバーが乙訓(まち)の魅力や課題に関心をもつ機会を創出します。そして、継続事業や各種まちづくり事業を通じた市民、行政、地域諸団体との連携による互いの信頼関係の深化や地域資源の発信で、住まう人に乙訓愛を伝播し、多くの人が多様な価値観で地域の発展に取り組む市民主導型のまちづくりへと導きます。さらに、乙訓(まち)の未来の創造には、自らが住まうまちに希望を描くことができる主体者意識をもつことが重要です。それぞれの地域社会において、代表を決める投票は自らが住まうまちの希望を選択するという大切な行動であり、候補者の情報を提供する場を設け、自らが住まうまちの未来への関心を高めます。住まう人の視点をなくすことなく事業の成果を追求すれば、必ず多くの人に想いは届き、私たちの運動への参加、参画に繋がります。未来Vision「まちと人が愛を実感する乙訓の実現」に向け、乙訓愛をもつ人を増やすことで、乙訓(まち)の明るい未来を創造してまいりましょう。

誇れる組織を次代に引き継ごう

乙訓青年会議所には、これまでの40年間で先輩諸兄姉が築き上げてこられた組織体系や会議運営方法があります。平均在籍年数の低下や経験不足のまま役職を担うなかであっても、先輩諸兄姉から受継がれた誇れる組織を継続的に発展させるには、定款、規程、守るべきルールや役割への意識をメンバーに浸透させる必要があります。また、単年度制の運営においても入念な計画と徹底した検証により事業を洗練し次代に引き継ぎ、私たちの地域に根差した運動をさらなる高みへ導いていかなければなりません。そして、公益法人としての自覚と責任をもった運営により、地域の方々からの負託と信頼に応え続ける必要があります。

まずは、メンバー一人ひとりに活動の方向性や決まりごと、それぞれの役割への意識を高める機会を創出します。そして、委員会の想いの詰まった事業に対し建設的で活発な議論を重ねるために、各委員会での情報の共有や意思の疎通を図り、実り多い会議運営を推進します。また、各事業にSDGsを紐付け推進することで、事業をグローバルな基準で位置づけ、私たちの運動の影響力と認知度向上に繋がります。さらに、公の益を追求するという視点で、公益性を保つ予算編成と、適切な予算執行への審査、各種権利に関するコンプライアンスの審査、業務や財務に関する情報開示により、公益法人としての社会的責任を果たす運営をします。また、私たちの運動を継続的に発展させるために、メンバー全員が青年会議所活動への意識を高める機会を創出し、高めた意識を次代に繋がります。妥協しない運営と地域にたしかかな影響ある事業構築を推進することで、組織への矜持を育み、胸を張って次代に引き継いでまいりましょう。

全力で活動できる環境を創ろう

私たちが日々活動する乙訓青年会議所の組織において、正副役員の行動や姿勢は常にメンバーの模範とならなければなりません。また、メンバーの活動への意欲を常に喚起し続ける存在である必要があります。

誉めるときも叱るときも、その言葉の重みは日々の行動や姿勢によって決まります。「ええもんはええ」「あかんもんはあかん」という乙訓青年会議所の伝統を繋ぐ意味でも、正副役員の立ち振る舞いを今一度見直し、正副役員としての自覚と責任をもって一年間活動します。そして、全ての事業、全てのメンバーに常に目を配り、労い、感謝し、時には悟らせ、誰もが全力で活動できる環境を創りましょう。

むすびに

乙訓青年会議所メンバー全員が、まだ見ぬ未来を信じ、仲間とともに全力でその役割や役職を全うすることで、一人ひとりが組織に属する「誇り」をもてたなら

私たちは、自身の成長、誇れる仲間という今後の人生の糧を得て、輝く人財となるでしょう。

乙訓青年会議所は、輝く人財が人を集め、地域に大いに影響を与える運動を展開できるでしょう。

乙訓(まち)は、私たちの展開する運動で明るい未来となるでしょう。

「やるときはやる」からこそ「楽しい」

自分や仲間、組織を素直に信じ、全力で取り組んでいこう！

未来がより良いものとなるように。